

KADOKURA KENTO

家族全員でアクセシビリティを体現しているような
けんちゃんとご家族の愛に溢れた生活。



けんちゃんと歩み

けんちゃんは気管切開をしているため発語ができず、鉛筆を持つことも難しい状態です。幼稚園に入学した頃、生後半年から使用しているiPadを家族とのコミュニケーションのためにもっと活用したい、できることの幅を広げたいと相談しに来てくれました。

最初はお母さんが用意したアプリだけを使っていましたが、今では自分で使いたいアプリを起動し、好きな映画や音楽、ゲームを探して楽しんだり、写真を撮ったりと本当に様々なことが自分の力ができるようになりました。

PROFILE

角倉 健仁

生後5ヶ月で脊髄性筋萎縮症と診断され、24時間人工呼吸器を装着しています。iPadは外出用・自宅用・学校用の3台を持ち、スイッチコントロールで操作。家族や友達とコミュニケーションをとったり、学校での発表や学習に活用したり。今やどんな時も欠かせない大事なパートナーです。



ASCからのコメント

けんちゃんを見ていると、まさにやんちゃな男の子という感じで、素直にのびのび育っている様子がなんとも素敵です。何度も同じカードを選んでいたずらするお茶目な一面もあります。その姿は特別なことはなく、同年代の子と変わらないなと感じます。機器の感想も素直に伝えてくれるので、より使いやすいアプリや設定方法と一緒に考えることができました。これからも一緒にできることを増やしていきたいです。

iPadのなかに込められたたくさんの愛情

けんちゃんのiPadの中には、漢字の練習カード、英語の単語カードなど勉強や会話で使える様々なイラストカードが入っています。それは全て、お母さんが手作りしたもの。売り物かと思ってしまうくらい高いクオリティのカードは数も膨大で、傍から見ると大変な“作業”的な印象ですが、角倉家では決してそうではないのです。やりたいこと・話したいこと、全てはけんちゃんの意思を尊重し、実際に使う環境をよく考えながら、カードを追加したり修正したりします。つまり、イラストカードと一緒に作り上げていくことこそが、けんちゃんとご家族との大切なコミュニケーションなのです。

けんちゃんの知らない間にカードを作り、その後iPadを触ったけんちゃんが新しいカードを見つけるとハッとしたリアクションをするそうです。ユーモアのあるカードを選んで場を和ませるのもけんちゃんの得意技です。やはりコミュニケーションは誰にとっても大切で、アクセシビリティが家族の尊い時間の一部になっているんだと実感します。

POINT

iPadで使うコミュニケーションアプリ「指伝話メモリ」。絵や写真、流暢な合成音声を使って簡単な操作で自分でカードを作れる点が特長です。カードは簡単に設定できるので、色々試しながら、人それぞれの使いやすさにフィットするコミュニケーション方法を探ることができます。



て、極め付けは熱気球の搭乗まで! いろんなところに飛び回っていました。次の目標は「飛行機に乗ること」。けんちゃんとご家族の新しい冒険はきっとずっと尽きないことでしょう。

